

僕は戦争花嫁 (1949)

I WAS A MALE WAR BRIDE

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 B&W

時間 105分

初公開日 1950/12/05

公開情報 セントラル

【解説】

H・ホークスの真骨頂、スクリーンボール・コメディの傑作。大戦後、占領下のドイツ・ハイデルブルグの米軍政部にフランス軍経済調査官アンリ（ヘンリー）・ロシャール大尉がキャスリン・ゲイツ中尉を訪ねてやってくる。彼らは以前協力して、ナチの盗んだ財宝や重要書類を捜し出し勲功賞を受けた間柄。しかし、プライドの高い同士の二人には喧嘩が絶えず、二度と会うまいと互いに心に決めた仲だった。アンリは彼女の机にネグリジェや下着、靴下をぶちまける。洗濯屋が間違っって自分に届けた彼女のものです、これ見よがしな当てこすり。君に会いにきたのではないからなーというワケだが、結局、今度の任務＝さる闇市にいるレンズ職人の捜索にも彼女が同行することになり……。キャスリン運転のバイクで、アンリはサイドカーにちんまり座り、極めてテンポのよい（しかし、寄り道ばかりの）道行きで炸裂する会心のギャグ。最後には愛が通って結婚したご兩人。ところが、キャスリンに帰還命令がくだり、離れたくない彼らは、民法上の盲点を利用し、アンリが戦争花嫁としてアメリカに入国しようとする。手続きの度それを説明するのにくたびれ果てるアンリ。ようやく乗船に漕ぎつけたが、最後の難関は水兵たち。“男の花嫁などあるか”とはねつけられ、仕方なくキャスリンたちが取った手段とは……。男勝りの女中尉のA・シェリダンがお色気を出す所の演出が、いつもながら御大ホークス、全く心憎い。

【クレジット】

監督	ハワード・ホークス	Howard Hawks
製作	ソル・C・シーゲル	Sol C. Siegel
原作	アンリ・ロシャール	
脚本	チャールズ・レデラー	Charles Lederer
	レナード・スピゲルガス	Leonard Spigelgass
	ヘイガー・ワイルド	Hagar Wilde
撮影	ノーバート・ブロダイン	Norbert Brodine
	オズモンド・ボラデイル	Osmond Borradaile
音楽	シリル・モックリッジ	Cyril Mockridge
	ライオネル・ニューマン	Lionel Newman
出演	ケイリー・グラント	Cary Grant
	アン・シェリダン	Ann Sheridan
	マリオン・マーシャル	Marion Marshall
	ランディ・スチュアート	Randy Stuart